

仲間の声を結集し、未来を切り拓く運動へ ～第22回林野労組九州地本定期大会～

林野労組九州

発行所
熊本市西区京町本丁2の7
全国林野関連労働組合
九州地方本部
(電) 096-354-1150

発行者 松本 慎剛
責任者 10日
発行日 1部20円
定価 組合員の購読料は
組合費の中に含む

緑を育て、守る、 林野労組

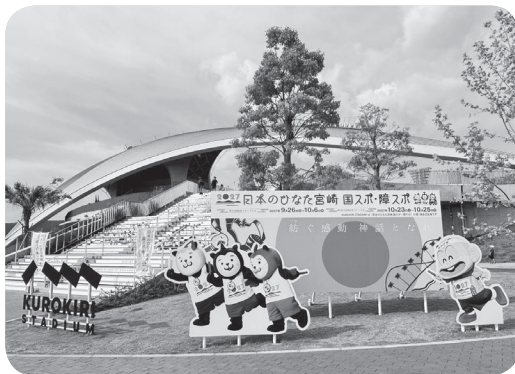
当面の活動

8月21日 宮崎県林活議連研修会(宮崎市)
8月24日 共済オルグ
8月28日 地本役員推薦委員会
9月4日～5日まで
森林労連共済推進会
議(熊本市)

匠の腕

熱き闘いはここから

(撮影者：福山健一・都城分会)



「匠の一言」

来年の国体は都城市がメイン会場。黒霧を飲みながら観戦したいものですね

九州地本は7月11日から12日までの2日間、熊本市で第22回定期大会を開催しました。2025年度の活動を総括するとともに、2026年度の運動方針を決定。賃金・労働条件の改善や組織強化など、現場の声を原動力とした運動を力強く進めていくことを確認しました。

大会は、議長団に橋本(福岡分会)、後藤(局分会)両代議員を選出し、議事が進められました。

冒頭、加藤地本執行委員長より、厳しさを増している社会情勢の中、組合員の命と暮らしを守るため、現場の声を粘り強く届けていくと挨拶がありました。また、熊本地震から10年の節目を迎えるにあたり、犠牲者への哀悼と、被災地の日も早い復興への願いも述べられました。

2025年度の活動経過や2026年度の運動方針では、人事院勧告に向けた取組として、民間企業で賃上げが続く情勢を踏まえ、中高年層にも十分配慮したベースアップについて、春闘から給与法改正までを一体的な取組としていくことが確認されました。また、離島への異動に伴う自家用車の運搬費が一部支給対象となった点に触れ、現場の声を反映した成果も報告されています。

傾向にある現状を共有し、90%台への回復を目標に掲げました。具体的には、組合員のニーズに添った職場集会等の定例開催、青年女性委員会による学習会や交流活動など、組織本来の魅力を再認識できる柔軟な取組に期待が寄せられました。

また、政治・政策課題についても、森林・林業政策の充実や、職場環境改善の実現には、国政や地方政治との連携が欠かせないことが提案され、組合員一人ひとりが職場の課題を自分事として捉え、運動へ参画していくことの重要性が改めて確認されました。

大会ではすべての議案が承認



大会の円滑な運営を担った橋本・後藤議長



地本執行委員長あいさつ

執行委員長 加藤 吉征

この1年間、組織全体で取組を進め、本大会に結集されました代議員・傍聴の皆さんに、心から感謝と敬意を表します。

2月8日に行われた第51回衆議院選挙は、直前に中道改革連合として選挙に臨んだこともあり、分会では戸惑いも大きかったのではないかと、精力的に取り組んでいたが、ありがたいと思いが、ありがとうございました。

結果は、推薦候補者24名のうち、当選者は5名(中道改革連合2名、国民民主党3名)にとどまりましたが、引き続き、連合方針を踏まえたうえで、林業に造詣の深い議員の確保に向け取組を進めていきたいと思いをします。

また、組合員との対話を意識した職場集会等を通じ、「職場における労働条件の改善

このことから、責任ある予算の措置と新規採用者の確保

善と政治は無関係でないことと「私たちの暮らし・生活そのものが政治と密接に関係していること」等への理解の醸成に努め、組合員の選挙闘争・政治闘争への参加に向けた取組を進めていきたいと思いをします。

組織態勢の確立については、現在、九州地本の組織率は約86%となっています。

林野労組結成当時からすると、要員の減少などにより組合員数も減っておりますが、組織率は全国一を維持しているところではあります。

このことは、組合員一人一人が組織の重要性を認識し、組合員みなさんの理解と協力による、九州地本の財産だと思っております。改めて、分会、組合員の皆さんへ感謝を申し上げます。

他方で、分会役員の担い手問題などにより、分会執行部には大変なご苦労があります



地本大会で「総括討論」が始まる前、少し面白い光景を目にした。発言予定者の一人が、資料

を手に真剣な表情で口をパクパク。ずっとパクパク。「きつと発言の練習をしているんだな」と微笑ましく思っている間にも、そのパクパクは続く。▼こちらも負けるもんかと、そのパクパクを追っかけていたら、いつしか「頑張れ」という気持ちが生えていた。▼大勢の前で話すのは誰だっけ緊張する。それでも想いは絶対に届けたい。その数分間のパクパクの裏には、仲間のため、何度も言葉を選び、伝え方を考えた時間がある。▼労組の運動も特別な人がつくるものではない。緊張しながらも一歩前へ出る。その勇気の積み重ねが、運動を前へ進めてきた。▼総括討論で見た真剣なパクパクは、その大切さを改めて教えてくれました。ぜひ、4面を読んで感じて欲しい。

(松本)

地本大会の質疑・討論

一般林政と国有林野事業の推進に向けた取組

◆要員関連課題について

中山（大分分会）

空きポストが増加し、現場管理機能に支障が出ている。空席ポストの解消に向けた要員要求の強化を。

小谷（都城分会）

支署次長級ポストの設置に向けた交渉の強化を。

峯（佐賀分会）

若手組合員は現場未経験で森林整備官に任用されている。任用の在り方において、森林官を経験した後に森林整備官として任用する方式にできないか。

藤川（熊本南部分会）

空席ポストが埋まらない。解消に向けた交渉の強化を。

歌野（屋久島分会）

屋久島森林生態系保全センターは、この4月の人事で所長以外は若手の一般職員3名体制となっている。業務運営の面で組合員である若手職員は不安を感じている。要員配置に問題がある。

蒲池（大分西部分会）

人事院規則の在級期間表廃止に伴う昇格要件については、林野庁独自の要件を確立すべき。

「地本答弁」

要員課題は全局的な問題であるが、九州でも深刻な状況が続いていると考えている。そのし

わ寄せは当局ではなく組合員にきており、地本としても当局責任に重点を置いた先を見据えた交渉強化を継続している。最終目標としては、労使合意した将来要員規模の確保だが、当面の間は、一般会計移行時の要員確保を目指して取り組む。

また、現場管理機能の確保については、国有林の特殊性に係わる重要なもの。新たな事務・業務委託、期間業務職員制度の活用と制度の充実、非常勤予算の確保、労使合意している将来要員規模に基づく新採数の確保と選考採用の継続、選考採用による「森林・林業技師制度（仮称）」を基本とした森林事務所への1・2名配置等、中央交渉と連動した取組を継続する。

支署次長級ポストの設置は、九州としても継続的に取り組んでいる課題。今年度は、総括治山技術官が2ポスト設置されるが、残る総括治山技術官ポストの設置とあわせ支署次長級ポストの設置を求め、本部と連携し取り組む。

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

若手職員の任用の在り方について、

よく行くところは手厚くするなど、制度に柔軟性を持たせてほしい。または一括調達で購入できるような検討を。

「地本答弁」

森林施業の低コスト化については、森林労連と連携し、現場の実態を丁寧に伝えてきたところ。そういった中で、さらに検討が必要なものについては、作業工程の見直しを含め、しっかりと意見反映させていく。また、低コスト化が求められる中でも、真に必要な事業には確実に予算措置を講じるよう交渉を強化する。

江口（鹿児島分会）

治山経費で伐倒駆除を実施していることから、治山事業に支障が生じ、担当者が苦勞している。本来の事業に影響が出ないような予算措置を。

山川（宮崎北部分会）

海岸地域に国有林があることから、危険木処理を頻繁に求められている。危険木処理に伴う予算の拡充を。

白内（北薩分会）

近年の異常気象がもたらす局地的な大雨により、林道洗掘や法面崩壊が著しい。林道の維持修繕にかかる経費の確保を。

柿田（宮崎分会）

分収造林の契約者が伐採を望んでいるが、林道から離れていることから入札しても不落となる。林道新設予算の確保を。

吉田（熊本分会）

林道に適したタイヤを装備するなど、現場の意見を踏まえた車両の調達を。

岩下（大隅分会）

業務服の貸与数について。毎日現場に行つて、洗濯しても足りない若手職員がいる。現場に



分会の声を受け、取組強化を誓う地本答弁

林道予算の確保と連動して取り組みたい。

海岸林に隣接する危険木処理については、年々予算が減っていることは承知している。民家等に被害が及んでからでは遅いので、十分な予算が確保できるよう取り組みたい。

業務服については、これまで様々な取組を経たが、更に柔軟になるよう意見反映していきたい。こういった形で落とし込むか、本部と連携しながら取組を進めていく。

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

林道の更新については、山林に適した車両が調達できるよう意見反映していく。併せて、林道修繕が適切に実施されるよう、

山間部など通信環境が不安定な現場において、安全確保の観点からも重要な取組であると認識しており、地本としては、林内での使用状況や課題を確認しながら取り組んでいきたい。それまでの間は、各署に配置されている現行機種を有効に活用していただくようお願いする。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。

電動小型チェーンソーの導入に向けては、分会からの現場実態を踏まえた意見を受け、交渉を進めてきた。要員不足や労力軽減の観点から、導入の必要性については十分理解している。

一方で、安全性の確保や振動病対策など、慎重に整理すべき課題もあることから、過去に整理された通知と同様に、作業基準をしっかりと整理する必要がある。現場で安心して活用できる環境づくりが重要であり、引き続き、本部とも連携しながら取り組んでいく。



蒲池（大分西部）



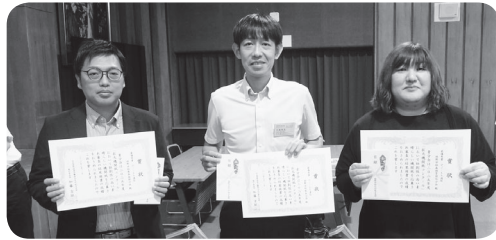
山川（宮崎北部）



柿田（宮崎）



小谷（都城）



機関紙最優秀賞の熊本ブロック

「地本答弁」

特殊勤務手当の支給要件については、これまで人事院交渉等において改善を求めてきたところであり、本年7月7日には国公連合とも連携し、人事院に対して交渉を行ってきた。現時点では具体的な見直し内容は示されていないものの、人事院本院による現場視察が実施されるなど、一定の前進が図られているものと受け止めている。引き続き、現場実態を丁寧に伝えながら、人事院交渉等を通じて支給要件の拡充を強く求めていきたい。

生活を守る取組

◆賃金等労働条件改善について

白内（北薩分会）

猛暑日での調査についても、特殊勤務手当の対象となる取組を。特別なヒアリングを行い、導入に向けた調整を進めている。また、全局を対象とした勉強会も行われており、今後は実証段階に移行する予定となっている。

下大迫（局分会）

近年、官用車での日帰り出張が増えていることから、同乗者についても超勤の対象となるよう取組を。

生命と健康を守る取組



蒲池（大分西部）



山川（宮崎北部）



柿田（宮崎）



小谷（都城）



三國 (宮崎南部)

◆職場環境について
岩下 (大隅分会)

署庁舎のエアコンが故障が多い。修理の予算要求しても、示達をもらえないことがある。修理がでず猛暑の庁舎内で業務を強いられる場合があるので庁舎の修繕経費の確保を。

「地本答弁」

現在の気象状況のような猛暑が続く状況では、死活問題である。分会でも当局に対し、故障する前の点検やメンテナンスを含め、早め早めの対応を意識した、確実な予算確保を当局に求めて欲しい。それでも予算確保が厳しい状況であるならば、地本もバックアップしたい。



岩下 (大隅)

◆政策・制度について
下大迫 (局分会)

特に風力発電事業などにおいて、国有林野の活用が行われているが、景観の維持など地本はどのようなスタンスとしているか。

「地本答弁」

風力発電事業における国有林野活用案件が多数あることは承知している。景観等を含めた地元対策や、環境影響評価については、局署の担当課等や申請依頼人がしっかり対応していくことが重要。地本では、国有林の管理経営に支障がないか、労働過重や安全確保を含めた組合員の勤務条件に問題がないかなど、



白内 (北薩)

労働組合としての視点で対応していく。



江口 (鹿児島)

聞く組織態勢の
確立に向けた取組

小原 (局分会)

社会的変化などにより、組合員の帰属意識の低下を懸念。地本の旗振りのもと、帰属意識の向上が図れる取組を。

組合費について。近年の物価高騰等もあり、組合員から多くの意見が出ている。現行の水準を維持するのであれば、その根拠と丁寧な説明が必要。

三國 (宮崎南部分会)

機関紙について。現在ホームページでも閲覧できることから、財政面を考慮し、紙面での発行は取りやめていいのではないかと考えている。帰属意識は、教えるものではなく、日々の関わり



歌野 (屋久島)

現在2・3%となっているが、一律2,000円といった負担軽減を検討できないか。

「地本答弁」

帰属意識については、一朝一夕に醸成されるものではなく、日頃からのコミュニケーションの積み重ねが何より重要。また、社会の変化によって大きく変わったのは、若い世代ではなく、私たち指導する側の関わり方であると認識している。受け手である若い組合員は、今も昔も素直であり、指導する側が相手に応じた適切な働きかけを行えば、帰属意識は十分に育まれるものと考えている。帰属意識は、教えるものではなく、日々の関わり



下大迫 (局)

りの中で育まれるものであるという認識のもと、職場集会や学習会等の開催を徹底し、組織への理解につなげていきたい。

組合費については、組合費が引き下げられれば、組合員の負担軽減につながることは十分理解している。一方で、現在の財政状況を踏まえれば、これ以上の財政規模の縮小は非常に厳しいものと認識している。組合費



小原 (局)

は金額だけで判断されるものではなく、活動の成果が実感できなければ、たとえ半分の金額になっても「高い」と感じられるものだと思う。こういったことから、現行の水準を維持しながら、各種取組を前進させていきたい。また、再任用職員の組合費を一律2,000円とするご意見については、貴重な提案として受け止めさせてい



ただいた。財政への影響等も十分に検証しながら、今後の検討課題としていきたい。



大会役員お疲れ様でした

青女傍聴発言



青年女性委員会で事務局長を仰せつかっております、片野といいます。青年女性委員会を代表して、発言させていただきます。

私たち青年女性委員会は、昨年7月に開催した第20回青年女性委員長会議で確認した方針に基づき、仲間と共に取り組ん

新たな挑戦へ翔ける想い

青年女性委員会事務局長

片野 翔太

きました。

その一環として、全分会で署長等会見を実施し、各分会から浮き彫りになった実態について、総務企画部長会見で改善要求してきました。これからも生活・

職場環境の改善に向け継続して取り組んで参ります。

また、団結強化を目的とした全体集会を開催するため、資金活動を展開し、「森人（やまんちゅ）ポロシャツ」第2弾の販売を展開しました。販売枚数は611枚と、当初の予想を大

きく超える結果となりました。改めて組合員の皆様、ご家族の皆様に感謝申し上げます。

今回の資金活動により、目標金額を達成することができましたので、今後は全体交流集会の開催に向け、常任委員一丸となつて取り組んでまいります。

また、更なる活動に向け、物販活動を引き続き取り組んでまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

これまで、青年女性委員の集まる場の確保をお願いしてきた

ところで、なかなか集まれないのが現状です。この状況を打開するため、各ブロックや分会単位での活動など、できることから少しずつ進め、組織態勢の強化に繋げていきたいと思

います。そういった想いから、九州地本青年女性委員会「ONE TEAM」プロジェクトという新しい取組を計画しております。この取組は、組合活動について学ぶ機会が十分でない中、分会の青年女性委員長となり、どのような活動をしていくべきか悩

りながら、これからという中で育まれるものであるという認識のもと、職場集会や学習会等の開催を徹底し、組織への理解につなげていきたい。

1人じゃない、だから前へ。

～第21回九州地本青年女性委員長会議～



全員が主役!! 九州地本のかげがえのない財産

「現在女性職員の採用数も増えているため、女性委員も年齢制限を設けてほしい」「赴任旅費において自家用車の輸送費を完全支給してほしい」「分会の青女役員体制に苦勞している」といった、職場の実態や率直な意見が数多く報告されました。

7月12日～13日にかけて、「九州森林労連会館」にて、「第21回九州地本青年女性委員長会議」を開催しました。

今回、分会代表者と傍聴者33名が結集するとともに、中央常任委員から榊田常任委員（関東地本）も駆けつけてくれました。

冒頭、東青年女性委員長から「更なる組織態勢の発展に向け、有意義な会議となるよう、率直な意見をお願いしたい」と挨拶。

論では、「若手職員が上位級の仕事をしている」「現在女性職員の採用数も増えているため、女性委員も年齢制限を設けてほしい」「赴任旅費において自家用車の輸送費を完全支給してほしい」「分会の青女役員体制に苦勞している」といった、職場の実態や率直な意見が数多く報告されました。

最後に東青年女性委員長の音頭のもと、力強い団結ガンバローで会議を締めくくりました。

選が行われ、宮崎ブロックの富田常任委員が退任となり、新役員として高橋常任委員（宮崎分会）が加わりました。退任された富田委員につきましては、これまで若手を引っ張っていただき大変お疲れ様でした。

各ブロックの総括討論

北部ブロック

蒲池代議員 天分西部



北部ブロックを代表しまして、本大会で確認されました九州地本運動方針を支持する立場から総括討論に参加します。

さて、春闘では数年連続でベースアップが行われたことから、ここ数カ月の実質賃金はプラス基調との情報もありますが、実感はなく、すべての世代で賃金引き上げの取組を進めていかなければなりません。

一方、職場に目を向ければ、一般会計移行14年が経過しまし

たが、課題は解決に至らず、前進しない状況となっています。国有林野事業の抱える「業務量の増加」「省力化、低コスト造林」「契約林解消」など、課題の解決にあたってはマンパワーが不可欠ですが、年齢構成、在職期間がボトルネックになっていると私は考えています。特に近年は新規採用者の増加により、実員ベースで席は埋まりつつあるものの、やはり中堅層職員の不足から、若手職員が役付け業務に従事させられる実態があります。このような現状を踏まえ、昇格運用の見直しが国

有林野事業の実態と合致したものとなるよう、これからも当局へ強く要求していく必要があります。

また、55歳定期昇給ストップ、定年延長者の給与7割制度についても、モチベーションの低下、国有林離れに繋がる恐れがあるため、早期改善に向けて取組が必要です。

そのような中、諦めず粘り強い取組をすることが、労働組合に対する意識向上に繋がると感じています。

私の分会書記長の話ですが、彼は中央青年女性委員会の副委員長でもありますが、基本組織の運営を安心して任せるこ

総括討論決意表明

地本執行委員長 加藤吉征



各ブロックからそれぞれの思いが込められた総括討論をいただきました。

改めて、九州地本が抱える課題を再確認するとともに、地本に対して指導性の発揮を求められたものと思っています。

さて、この2日間の議論では、要員関連課題を中心に多くの発言がありました。また、賃金・手当問題など、労働条件での最たる部分での発言もありました。いずれも喫緊の課題であり、当面する具体の対応策を含め、着実に取り組

むていきたいと思います。職場では、要員が減少する一方で事業量は増加し、コスト削減も求められ、そうした状況の中でも、債務返済など果たすべき責務は求められます。こうした現状を見た時に、これ以上、組合員に負担を強いることはできませんし、新たな問題を引き起こすわけにはいきません。

改めて、この大会で確認した取組を進めるとともに、国有林野のあるべき姿を示させ、組合員が安心して働ける職場を作り上げる必要があると

一企業・一組合の理念のもと

とができ、さらに若者をまともな存在でもあります。このように新しい世代が確実に育っていることを報告するとともに、この場をお借りしてお礼を伝えたいと思います。木下君、いつもありがとうございます。

最後に、本大会で確認された運動方針に基づき、全ての組合員が笑顔で明るく課題解決へ向け団結し、取り組むことを決意し、北部ブロックを代表しての総括討論と致します。

共に頑張りましょう。

熊本ブロック

藤川代議員(熊本南部)



熊本ブロックを代表し、総括討論に参加いたします。

思っております。

また、組織強化についても発言がありました。

九州地本は全国的に見ても仲間意識が強い地本だと思っています。組織率は低下傾向にあります。組織率は低下傾向

にあります。組織率は低下傾向にあります。組織率は低下傾向

にあります。組織率は低下傾向

にあります。組織率は低下傾向

にあります。組織率は低下傾向

まず、私たちの職場を取り巻く環境についてであります。一般会計移行から本年度14年目を迎えますが、要員不足、賃金・各種手当、職場環境の改善など、多くの課題が継続しており、十分な前進が見られていない状況にあります。

特に要員問題は深刻であり、慢性的な人員不足により空席ポストの増加や業務量の増大が常態化しています。加えて、40歳前後の中間層職員の不足によるポストギャップ、若年層の早期離職も重なり、現場の負担は限界に近づいています。定年延長制度が始まったものの、給与が7割となる一方で、求められる業務内容は従来と変わらず、モチベーションの低下を招いています。

こうした状況の中で、60歳以上の職員や再任用職員が有する

え。全組合員が行動に参画することが大切だ」という言葉があります。まさに、それぞれ自分のできる形で力を発揮することが、組織の力に繋がるのだと思いますので、ぜひ組合員のみさんには、運動への参画意識を高めていただきたいと思っています。

最後に、わたしたちを取り巻く課題は依然として山積しており、課題解決に向けては、執行部だけではなく、組合員一人一人の力が不可欠となります。

そういった中、人それぞれ得意なこと、不得意なことがあると思います。

歴代委員長が語り継いだ言葉をお借りすれば、「話が上手な組合員は話で、文章が得意な組合員は文書で、両方苦手な組合員は足で、行動で訴

え。全組合員が行動に参画することが大切だ」という言葉があります。まさに、それぞれそれぞれ自分のできる形で力を発揮することが、組織の力に繋がるのだと思いますので、ぜひ組合員のみさんには、運動への参画意識を高めていただきたいと思っています。

知識と経験を十分に活かせる環境整備は重要であり、世代を超えた人材活用と持続可能な職場づくりが求められます。

また、生活環境の面では、長引く物価高騰に対し賃金の伸びが追いついておらず、生活基盤に大きな影響を及ぼしています。賃金は労働意欲の根幹であり、全世代に対する賃上げの実現が喫緊の課題であります。

さらに、組合を取り巻く状況として、組織率の低下も看過できな問題です。九州地本の組織率は長年9割を超えていた

たが、現在は86%まで低下しており、組合離れが進んでいます。組織の力は組合員の結集によって成り立つものであり、新規加入対策とともに、既存組合員への丁寧な対応と信頼関係の強化がより一層重要になっています。

このように多くの課題が山積する中ではありますが、これらの一つ一つ乗り越えていくためには、中央・地本・分会が一体となった取組が不可欠です。

最後に、本定期大会で確認された運動方針に基づき、職場の諸課題解決と一枚岩の運動推進に向け、全力で取り組むことを決意し、熊本ブロックを代表しての総括討論といたします。

宮崎ブロック

木崎代議員(西都児湯)



宮崎ブロックを代表し、中央本部ならびに地本の運動方針を支持する立場から総括討論に参加します。

現在、不安定な国際情勢により物価や燃料価格の上昇が続いており、組合員一人一人の暮らしに大きな影響を及ぼしています。

昨年、全年齢層においてベースアップが行われ一定の成果はあったものの、すべての職員が安心して働くには、さらなる賃金改善が求められます。

このような状況の中、組合員の中から後ろ向きな意見なども聞かれ、組合に対する帰属意識が低下していると危惧しています。

高い組織率である九州地本においても年々加入率が低下しており、組合離れが深刻化しています。組織の強化は、労働組合の組織を守るだけでなく、私たちの職場、労働条件など、組合員一人一人を守るためのものです。そういう意識を持った多くの仲間が結集し、一人一人が行動することで、大きな「力」になるのだと思います。

私たちが現在享受している労働条件や福利厚生は、決して当たり前に与えられたものではありません。先輩方が長年にわたって団結し、粘り強く取り組んできた運動の成果によって築かれてきたものです。私たちは、その成果を守り、さらに発展させながら次の世代へ引き継いでいく責任があります。

若手組合員が今後も安心して働くことのできる労働条件を確保するため、大きくまとった組織であることが重要と考えます。そのためには、「この組合にいて良かった」と感じられる日常の積み重ねが何より大切です。仲間との信頼関係や支え合

いは、組織を支える土台になり

ます。

西都児湯分会では、組合員同士の結び付きが強く、圧倒的な結束力があります。このことで若い組合員も日頃から互いを気

にかけ、自然と声を掛け合い、相手の考えや悩みに寄り添うことができています。この強い信頼と結束力を風土化し、諦めることなく加入促進に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりますが、本大会で確認されました各種方針を念頭に、地本と一体となり、「一枚岩運動」の推進に向け取り組むことを誓い、宮崎ブロックを代表しての総括討論と致します。

ともに頑張りましょう!!

鹿児島ブロック

岩下代議員(大隅)



鹿児島ブロックを代表して、地本執行部を支持する立場から総括討論を行います。

まず、賃金・労働条件について「この3年間、30年ぶりの高い賃上げ水準が続いているものの、物価上昇のスピードに賃金の伸びが追いついていない状況にある」と指摘されているように、我々公務員の名目賃金は上昇傾向にあるものの、生活実態は依然として厳しい状況にあります。魅力ある職場づくりのため、さらなるベースアップに向け地本・分会が一体となり、取組を強化しなければなりません。

また、近年の激甚化する自然災害により、九州各地の国有林

では林道欠壊や山腹崩壊が増加しています。復旧の早期化が求められますが、予算が不足していることから、目処がつかず、放置されている箇所が多い実態です。

特に林道は全ての事業の要です。我々は本部・地本と連携し、必要な予算確保に向けた取組を強化しなければなりません。さらに業務量の増加に対し要員不足は深刻な問題であり、「労働災害ゼロ」を形骸化させないためにも、適切な人員配置に向けた取組を強化しなければなりません。

次に、組織体制の確立については、組織率が90%を下回った現状から、組織強化が最重要課題であると考えられます。特に新規採用者や選考採用者には、若手組合員を巻き込んだ形で、より丁寧に説明することが重要です。

そのような中、新たな取組として、未加入者への説明会が行われました。大隅分会にも地本執行委員に参込んでいただき、熱い思いと丁寧なコミュニケーションの説明がされた結果、1名の組合加入を獲得することができたところです。

我々は、九州地本の運動の柱である「一声・一枚岩運動」を、時代に合わせた形で進化させながら、組織態勢の強化に取り組まなければなりません。

最後に、林野労組に結集する全組合員の総力を挙げ、運動方針を力強く実践していくことを決意し、鹿児島ブロックを代表しての総括討論といたします。

共に頑張りましょう。